

2012年度森泰吉郎記念研究振興基金研究成果報告書

研究課題名：国民皆保険体制の政策史研究

所属：政策・メディア研究科修士課程 2年

三谷宗一郎

1. 研究背景

日本の国民皆保険体制は、複雑な制度体系、制度間格差の問題、国庫負担額増加の傾向など様々な政策課題を抱えている。これらの問題は皆保険達成から現在に至る半世紀の歴史のなかで、何度も議論されてきたが、解決されてこなかった。先行研究ではその理由について「対症療法的な政策がとられてきたからだ」と指摘されてきた。

しかし本当に対症療法的だったのか。これまでの政策には一定程度の一貫性があったと言える。過去の政策に共通する「何か」の存在が一貫性を維持していたのではないか。

2. 研究目的

- ・国民皆保険体制を運用する政策のなかに一貫して組み込まれてきたと考えられる運用理念は存在するのかを検証する。存在する場合、それはどのような理念か政策史研究の観点から明らかにする。
- ・また運用理念はどのように形成され、理念と政策の関係を考察し、運用理念が政策に与える影響を考察する。

3. 研究手法

- ・第一次資料を含めた史資料の調査、分析
- ・関係者へのインタビュー調査
- ・現役の厚生労働省官僚へのアンケート調査

4. 研究成果

- ・第一次資料の入手により、半世紀の皆保険政策を規定していたと考えられる運用理念の存在を明らかにすることができた。
- ・この運用理念が以後の政策過程にどのように影響を及ぼしていたのかを今後検証していくこととする。